

## 目 次

第5版のはじめに  
はじめに  
数学付録

### 第1章

## 社会調査とは何か

❖ 調査法, はじめの一步 ❖

### 基礎

- 1 社会について「正しく」知ること ..... 001  
社会データの重要性/社会データのリテラシー
- 2 社会調査の定義 ..... 003
- 3 私たちの社会調査との関わり ..... 005
- 4 調査目的による社会調査の分類 ..... 007

### 発展

- 1 公的統計と統計調査 ..... 009
- 2 国勢調査 ..... 010
- 3 いろいろな調査のデザイン ..... 012
- 4 社会調査の実像 ..... 013  
横断的調査/比較調査/繰り返し調査/パネル調査
- 5 社会調査士制度と調査倫理 ..... 016  
〔資料〕一般社団法人社会調査協会倫理規程

### 第2章

## 社会調査の種類

❖ 質的調査と量的調査とは? ❖

### 基礎

- 1 社会調査を分類するさまざまな軸 ..... 021

調査の方法と分析の方法／統計的調査と非統計的調査・標本調査と事例調査

- 2 量的調査と質的調査…………… 023  
量的調査／質的調査
- 3 質的調査の特徴…………… 025  
語られたものや語ることの重視／調査者と調査対象者の関係の重視／  
調査の継続性・反復性とラポール／信頼性と妥当性についての考え方
- 4 Mixed Method…………… 031

**発 展**

- 1 全体とケース選択…………… 032
- 2 さまざまな水準での「量的／質的」区別…………… 032
- 3 客観性・信頼性…………… 033
- 4 エスノグラフィーの質の基準としての厚い記述…………… 034
- 5 「質的／量的」という区別への批判…………… 034
- 6 質的比較分析の集合論的・論理的アプローチ…………… 035

第3章

社会調査のプロセス

❖ アイディアから後かたづけまで ❖

**基 礎**

- 1 調査の全体像を把握する…………… 039
- 2 それぞれのステップを理解する…………… 042  
構想・計画／準備／実査／データの入力と点検／分析／報告／  
データの管理

**発 展**

- 1 既存研究の探し方…………… 047
- 2 報告書の作成…………… 049

第4章

社会調査のデザイン

❖ 因果分析を念頭に調査を設計するには？ ❖

**基 礎**

- 1 何を知りたいのか…………… 050

リサーチ・クエスチョンを育てる／記述的な問いと説明的な問い／変数と分布

- 2 どのように検証するか…………… 053  
因果関係とは／疑似相関と変数の統制／理論仮説・作業仮説とその検証／測定の信頼性・妥当性

**発展**

- 1 仮説を正確に検証するにはどうしたらよいか…………… 058  
反実仮想モデル／無作為割付実験・傾向スコア・回帰分析による因果効果の推定／選択バイアスと母集団の設定／調査種類の選択
- 2 より良い調査研究とは…………… 062

第5章

実査の方法

❖ どのような調査モードを選べば良いのか？ ❖

**基礎**

- 1 調査モード選択の基準…………… 064  
調査票調査における調査モードの重要性／調査モードを選ぶ基準
- 2 さまざまな調査モード…………… 068  
調査員の関与の程度／他記式調査／自記式調査
- 3 適切な調査モードの選択…………… 078

**発展**

- 1 データ収集におけるコミュニケーションの手段がもたらす影響…………… 078
- 2 混合モードの長所と留意点…………… 079

第6章

調査票の作成

❖ 質問の作成からレイアウトまで ❖

**基礎**

- 1 調査票の作成について学ぶ理由…………… 082
- 2 調査票はどのような構成をとるか…………… 083
- 3 質問の作成にいたる手順…………… 084
- 4 どのような質問形式を選ぶか…………… 085

5	質問を作成するときの留意点	087
	曖昧な表現を使わない／ダブルバーレル質問をしない／難しい用語を使わない／誘導的な表現を使わない／黙従傾向に注意する	
6	質問の配置にかんする留意点	090
	回答者の心理的負担を小さくする／キャリーオーバー効果に注意する／回答選択肢の順序に注意する	

### 発 展

1	ワーディングが回答に影響を及ぼす実例	093
2	調査票のレイアウト	093

## 第7章 サンプリング

❖ 対象者はどのように選べば良いのか？ ❖

### 基 礎

1	なぜ対象者の選び方が重要なのか	097
	標本調査の必要性和役割／ランダムではない種々の抽出法	
2	無作為抽出法	099
	すべての人を同じ確率で……／無作為抽出標本だけにできること	
3	標本抽出枠とカバレッジ誤差	102
4	実行可能性や利便性への配慮	104
	多段抽出／訪問費用の抑制と誤差の増大／地点の選び方と最終的な個人の抽出確率／系統抽出	
5	層化抽出	107
6	無作為標本からの乖離	108

### 発 展

1	名簿を使わないサンプリング	110
2	系統抽出の実際	110
3	事前の重みづけと調査後の調整	113

## 第8章 調査の実施

### ❖ 郵送法と個別面接法 ❖

#### 基礎

- 1 郵送法実査を運営する…………… 115
- 2 郵送法の手順…………… 116  
事前予告／電話での応対／調査票と依頼状の送付／回収／督促（催促）／フィードバックとお礼

#### 発展

- 1 個別面接法実査を運営する…………… 122  
事前の準備／調査員のトレーニング／訪問と面接／調査員の管理とサポート
- 2 実査の「良い結果」とは…………… 126  
回収率について／実査の方法研究の必要性
- 3 調査プロセスを総合的に管理する…………… 127  
〔資料〕事前予告状の例

## 第9章

## データの電子ファイル化

### ❖ 大切な正確性と一貫性 ❖

#### 基礎

- 1 データの構造化の流れ…………… 131
- 2 実査の前のコード化…………… 132  
コード体系（コード構造）の構築／有効でない回答／多項選択方式のコード構造
- 3 実査におけるコードの適用…………… 136
- 4 実査終了後の作業…………… 137  
調査票のエディティング／データの入力／データファイルのエディティング（データクリーニング）
- 5 アフターコーディング…………… 142  
後からコードの適用を行う／後からコードを構築する

#### 発展

- 1 コーディングの容易なものとの難しいもの…………… 144

2	二重データ入力による入力ミスの検出	145
3	データの重みづけと補定	146

## 第10章

### ウェブ調査の方法と実施

#### ❖ デジタル技術による社会調査の革新 ❖

##### 基礎

1	インターネット調査の二つの側面	147
2	ウェブ法の利点 マルチメディア性やインタラクティブな画面／負担や誤りの軽減と回答精度の向上／さらに高度な長所	148
3	ウェブ法の実際 制御の設計と動作確認／電子調査票の要素／ていねいで回答しやすい画面構成／調査票情報の保存／信頼性の低さが懸念される回答への対処	151
4	ウェブ調査の標本抽出枠の側面 非確率オンラインパネルの急速な普及／NPOP を用いた調査の問題(1)：パネル全体の網羅性と代表性／NPOP を用いた調査の問題(2)：具体的な回答者の問題／NPOP を用いたウェブ調査の可能性／確率に基づいたオンラインパネルへの関心	157

##### 発展

1	ウェブ法と郵送法のミックスモード調査	162
2	調査票調査における計量テキスト分析 テキストデータとテキストマイニング／調査票調査におけるテキストデータの収集／データクリーニング／テキストデータの計量分析	163

## 第11章

### データの基礎的集計

#### ❖ たくさんの情報を要約する ❖

##### 基礎

1	変数の種類	168
2	質的変数の要約	170
3	量的変数の要約 代表値／散布度／ばらつきを考慮して比較する／中央値に対応するば	171

**発 展**

- 1 歪度と尖度…………… 180
- 2 質的変数の散布度…………… 181

第 12 章

統計的推測

❖ 見えない「全体」に対する想像力 ❖

**基 礎**

- 1 理論的に推測するために…………… 183
- 2 標本抽出分布…………… 184
- 3 標準誤差…………… 186  
標準誤差と信頼区間／未知の母分散の推定
- 4 母平均の区間推定とは…………… 188  
不偏分散と t 分布／信頼区間の式と標準正規分布／t 分布を用いた信頼区間の式／信頼水準と信頼区間の幅
- 5 統計のテストをします…………… 192  
帰無仮説と背理法／検定の具体例と一般形／目に見える誤りと目に見えない誤り

**発 展**

- 1 推定の精度と母集団の大きさ…………… 198
- 2 特定の信頼区間の当否…………… 198
- 3 分散にも標本抽出分布がある…………… 198
- 4 両側検定と片側検定…………… 199
- 5 検定と区間推定の関係…………… 199

第 13 章

変数間の関連

❖ データを分析する ❖

**基 礎**

- 1 変数間の関連を探るとはどうか…………… 201
- 2 変数の種類と分析方法…………… 202
- 3 散布図の作成と相関係数…………… 203

	散布図の作成／相関係数	
4	クロス表の作成と連関の指標	206
	クロス表の作成／連関の指標と独立性検定	

**発 展**

1	相関係数の検定	214
2	生態学的誤謬	214
3	重回帰分析	215

第14章

調査倫理とデータの管理

❖ 調査のフィナーレまでしっかりと ❖

**基 礎**

1	調査倫理	217
	なぜ調査倫理を考えるのか／FFP（特定不正行為）／QRP（好ましくない研究行為）／インフォームド・コンセント／個人情報保護／不正行為防止に対する取り組み	
2	データの管理	223
	回収原票の保管／回収原票の廃棄／研究の再現可能性／二次分析	

**発 展**

1	データリンケージ	226
2	出版バイアス	226
3	IRB	227
4	データアーカイブ	228
5	公的統計の公開と研究データの管理	228

第15章

社会調査の意義と今日的課題

❖ 私たちはいま何を考えるべきか？ ❖

**基 礎**

1	社会調査の困難	230
	抽出台帳閲覧制限問題／回収率低下問題／調査不能の理由／一時不在と調査拒否の背景	
2	社会調査への協力	234

調査の社会的利益／社会のなかでの社会調査／社会調査への協力

- 3 データと分析の質の問題 …………… 237  
問いの高度化による困難／無作為抽出ができないときの対応
- 4 社会調査を学ぶ意義 …………… 239

**発 展**

- 1 調査者—被調査者の関係 …………… 240  
ある調査拒否の例／似田貝—中野論争／中野に対する安田のコメント
- 2 社会調査小史 …………… 243  
海外の先駆的調査／日本の先駆的調査
- 3 社会調査データに関する近年の動向 …………… 244

文献リスト

事項索引

\* 第4版と第5版の目次の比較などを次のウェブページに掲載しています。

<https://www.li.ocha.ac.jp/ug/hss/socio/sugino/survey5th/>

